

## 公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	江尻(篠原)桂子・清水(中西)由紀	所属	茨城キリスト教大(江尻)埼玉大学(清水)
研究集会等名称	発達心理学基礎研究検討会〔通称：土曜研〕		
成果概要	<p>1) 参加人数(会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 26名(うち認定心理士 5名)</p> <p>非会員 50名(うち認定心理士 5名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>①目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本研究会では、発達心理学研究の中でも、特に実証的研究、データに基づく実験・観察・調査研究に重点をおき、これらに従事する第一線の若手研究者をゲストにむかえた。そして最新の研究成果発表をもとに、参加者を交えた活発な議論を行った。</li> <li>・ホームページを開設し、これまでの開催概要および今後の開催予定について掲示している。 <a href="http://doyou.kt.fc2.com/index.html">http://doyou.kt.fc2.com/index.html</a></li> </ul> <p>②成果：2013年度は1回の研究会を開催した。</p> <p>&lt;第24回研究会&gt;</p> <p>日時：2013年8月17日(土)15:00-18:00</p> <p>場所：埼玉大学東京ステーションカレッジ)</p> <p>増田貴彦先生(アルバータ大学・京都大学)</p> <p>「こころが育む文化、文化が育むこころ：文化心理学における発達研究」</p> <p>発表者からは、東アジア文化圏と北米文化圏のそれぞれの文化圏で歴史的に蓄積された思考様式の違いが、「注意」のような基本的な心理プロセスにまで影響を及ぼすことをご自身の研究から示していただいた。また、文化特有のこころを備えた人々が、デザイン・絵画・写真といった視覚表象文化を生み出す際に、それぞれの文化で主流の思考様式を反映した産物を生み出す傾向があることについても、データをもとに説明していただいた。</p> <p>全国から、また様々な分野から、研究者や学生約25名が集い、文化心理学と発達心理学の融合領域における研究内容および方法論等について、活発な議論がなされた。</p> <p>③将来の計画：これまでと同様、年に1~3回の頻度で定期的に研究会を開催してゆく。研究会の開催スタイルとしては新進気鋭の研究者をゲストスピーカーに迎え、最新の研究成果について発表いただき、これをもとに参加者らで議論を行ってゆく。研究会の将来目標は次の二点である。①異なる研究機関に所属する研究者同士の交流の増進を図るとともに、研究者間・研究機関間のネットワーク形成および学術情報の共有の場を提供する。②研究会活動を通して、日本の発達心理学研究における若手研究者の支援と交流の活性化を目指す。</p>		

2014年3月31日

日本心理学会研究会 2013年度会計報告書

研究会名称 発達心理学基礎研究検討会〔通称：土曜研〕

研究会番号 研13018

助成金額 ¥20,000

年月日	項目	金額
2013年8月17日	発表者の交通費（一部） ※発表者 増田貴彦先生 （京都駅－東京駅 往復27,820円）	¥16,000
2013年8月17日	当日の学生アルバイト 900円×1時間×5名	¥4,500
支出合計		¥20,500